

幸せな未来の暮らしづくり



発行：沼津市リノベーションまちづくり実行協議会（事務局 沼津市まちづくり政策課）

〒410-8601 静岡県沼津市御幸町16番1号

TEL 055-934-4886

MAIL ppp@city.numazu.lg.jp

<https://www.city.numazu.shizuoka.jp/renovation/index.htm>





沼津市では、自分たちの未来の暮らしをつくるために、
リノベーションまちづくり推進事業に取り組んでいます。

リノベーションまちづくりをきっかけに、
今を楽しむ大人たちの姿が、市内のあらゆる場所で増えてきています。
そういう大人たちを、子どもたちが見ることにより、
戻ってきたくなる場所、他所から羨ましがられる地域が作られます。

少し先の未来を楽しむために、
一人一人が自分を追求・探求し、今を楽しむ、
人や物や想いを循環させ、時間を共有することで、
多様で豊かな地域を育み、持続可能な都市を目指します。

幸せな未来の暮らしづくり

- P03 私の未来 団地とその周辺の未来
- P05 循環と小商いの未来
- P07 ローカルエリアの未来
- P09 コミュニティの未来
- P11 食と産業の未来
- P13 沼津の豊かな暮らし(未来)コンセプト
- P14 戦略イメージ
- P15 エリアイメージ
- P17 沼津の暮らしラボ ダイジェスト
- P18 リノベーションまちづくり



子どもたちも進学で団地を離れ、手狭になっていた部屋も広く感じる。我が家は静かになったけれど外からはたくさんの子どもの声が聞こえる。

20年前はシャッターが目立っていた団地横の店舗街も今は昼も夜も賑わい、そこに行けば誰かに会える話せるが日常になった。

地場野菜をメインに扱う八百屋さん、曜日で店主が変わるカフェ、朝早くから始まる自家焙煎コーヒー屋さんに、夜はマスターとゆっくり話せるBAR。県外から来た人が訪れることも増えたらしい。子育て真っ盛りの時はあんなに1人の時間が欲しいと願っていたはずなのに、いつでも1人になれるようになったら人恋しい。でも外にも居場所があるから、1人の時間も誰かと一緒にいる時間もどちらもあつた団地の日常を幸せに想う。



多様な世代が関わるダンチマルシェ

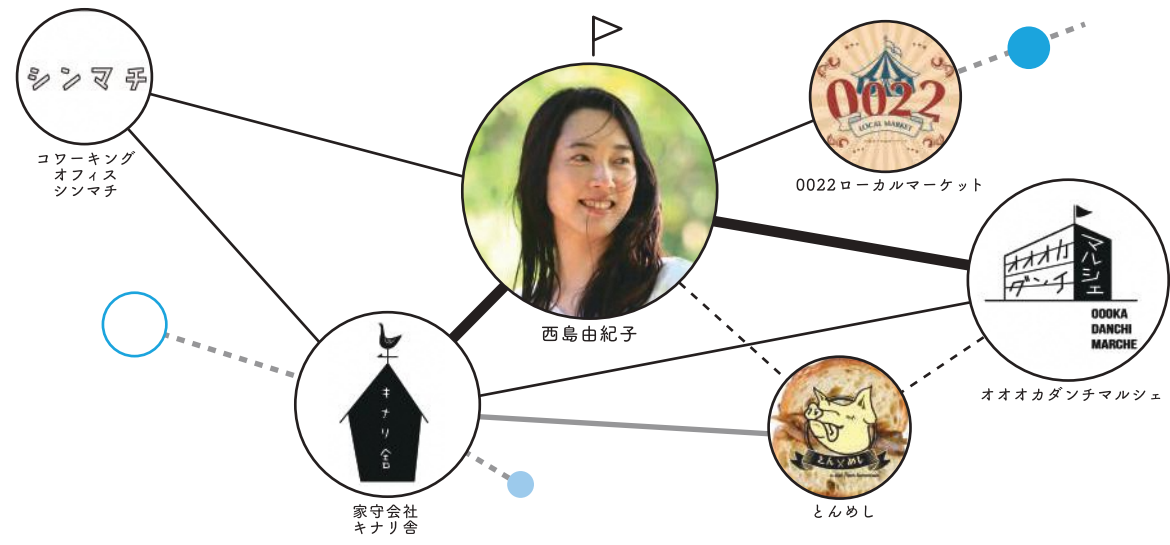


“つながり続けるまちと団地とひと”をメインコンセプトに、団地を“見て、知って、感じて”もらうために定期的に開催するオオオカダンチマルシェには、子どもからお年寄りまで、世代を超えたつながりが生まれている。子どもの数が年々減っていく、自分の住む団地をなんとかしたい、という思いから始めた団地再生へつなげるための取り組みが、団地の人もそうでない人も巻き込みながら、団地の暮らしを育てている。

▲オオオカダンチマルシェ実行委員
地元のいつものメンバー



共創する生態系





サポーターとつくる環境に配慮した循環工場



▲サポーターは無償だが食事を提供しみんなでかこむ



▲屋上では自然栽培を行い緑化を推める

環境に寄り添い「もの」や「人」を循環させてよりよい生活の仕組みを考える循環工場は、我入道にあった元鯖節工場のリノベーションの段階から多くのサポーターが関わる。環境に取り組む姿勢やアップサイクルは、共感を生んで広がり、そこから生まれた小商いは、もはや定義はなくて、新たな産業となりつつある。

「毎日が週末」

海外を旅して好きだった街の風景

道端に集まってボードゲームをしている中国の風景

道端で食べ物や花を小さいカートで売っている人が並ぶメキシコの風景

街中緑が溢れ、木陰で休んだり会話をしているインドでの風景

平日に庭でBBQしているアメリカでの風景

夜になるとナイトマーケットが通りで開催されるタイでの風景

公園で自分の時間を楽しむオーストラリアでの風景

朝ごはん専用の露店があるベトナムでの風景

「沼津がこんな街になったらいいな。」

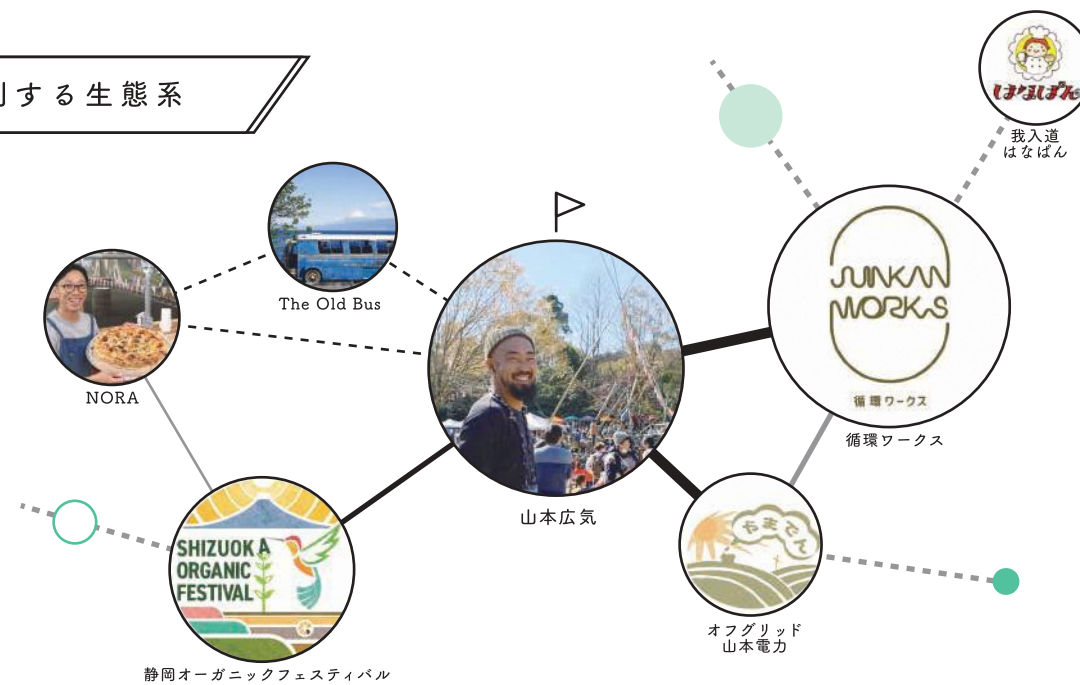
駅前周辺には大きな公園があり、朝は年配の方のウォーキングや交流の場

として、日中には学生や子ども連れのお母さんの憩いの場として使用される。

駐車場にはフードトラックが並び、公園内は色々な方が小商いをしている。

狩野川周辺にはTHE CHAMBERを中心に狩野川に沿ってお店や露店が並び、たくさんの人で賑わっている。

共創する生態系





コロナ禍が続き、長い間海外旅行ができていなくて、日本の行きたいところに訪れていたが、いよいよ行きたい場所が無くなってきた。週末の予定が突然キャンセルになったので、気晴らしに駿河湾の海岸線をドライブすることにした。海沿いの風景を横目に南下していくと、次第に道が山道に変わっていく。悠々と育つ木々を眺めながら、同じ沼津にこんなに豊かな自然があることに驚いた。

山道は次第に下り坂になり、また少しずつ海に近づいて行く。すると山が開けて隙間にすっばりと収まった戸田の街並みが現れた。山に囲まれた、特別な空気感を感じる場所。市街地から1時間足らずでこんな別世界が、しかも同じ沼津市内に存在していたとは。感染症対策で移動が制限されたことで、沼津市の近すぎて見えなかった魅力に気がつく事ができた。

この街にはまだまだたくさんの魅力があるはずだ。

そんな気持ちで、時間を見つけては近場の行ったことのない場所を巡ることが、私の楽しみになった。

地域内外の人とコンテンツをつなぐ 海に面した戸田のホステル



県外や海外からも、戸田のこのホステルを目指して人がやってくる。海の目の前に打たれたピンは、そこから珈琲豆焙煎所、ハーブガーデン、webメディア等、新たな人を巻き込みながら、エリアの価値を高めている。沼津の最南端の戸田～三浦～まちなかを常に新鮮な人とコンテンツでつなぐ。

共創する生態系

